

国際交流① 姉妹都市ディーツヘルツタール(ドイツ)

ディーツヘルツタールは、ドイツ中部のヘッセン州にあり、広大な森林地帯の中にある自然豊かな美しいまちです。人口は約6,000人(下野市の10分の1)、面積は約37平方キロメートル(下野市の約半分)です。



■「石橋」から始まった交流 2025年に50周年！

ディーツヘルツタールには、シュタインブリュッケン(日本語で石橋の意味)という地区があり、獨協大学名誉学長の石橋長英博士(故人)が旧石橋町と交流の橋渡しをしたことから、両町の交流が始まりました。

1975年4月に姉妹都市となってから、双方の合併後も交流は続き、来年、50周年を迎えます。節目の年を記念して各種イベントの開催を予定していますので、続報をお楽しみに！



ディーツヘルツタールの五重塔にて

■中学生相互派遣事業

3年に1回実施されている中学生相互派遣事業では、今まで下野市(石橋町)から9回、ディーツヘルツタールから8回、中学生がお互いのまちを訪れてきました。ホームステイをしながら、現地の学校を訪問したりドイツの文化や歴史を学んだりするこのプログラムは、生徒たちの国際感覚を養う貴重な機会となっています。派遣への参加をきっかけに留学や国際的な職業を目指す学生も出ており、世界に羽ばたく人材の育成に一役買っています。

昨年度は6年ぶりに、合併後5回目となる相互派遣事業が実施され、9月には下野市の生徒がディーツヘルツタールを、3月にはディーツヘルツタールの生徒が下野市を訪問しました。

参加した生徒のほとんどが海外に行くことさえ初めてのなか、6日間のドイツの家庭でのホームステイ。最初は緊張した様子でしたが、現地の学校の授業体験やホストファミリーと過ごす1日、ライン川沿いの街への遠出など、充実したスケジュールを経て、別れ際には「帰りにたくない」と涙ながらに別れを惜しむ姿が見られるほどに。生徒たちにとって、とても貴重な経験となりました。

3月には、自分たちが受け入れる側となり、ディーツヘルツタールの生徒たちと半年ぶりの再会を果たしました。あいにくの寒さで、残念ながら桜は咲いていませんでしたが、雪の中の日光東照宮など、一味違う景色と思い出を共有することができました。



国分寺中学校でお囃子に挑戦する
姉妹都市の生徒たち

国際交流② ミュンヘン大学生の受け入れ

ミュンヘン大学は、ドイツの南部バイエルン州の州都ミュンヘン市にあり、18学部で約5万2,000人の学生が学んでいる総合大学です(1472年創設)。

毎年8月、大学で日本語を学んでいる学生たちが、日本語や日本文化に触れるため、下野市に約2週間ホームステイをします。28回目の実施となった今年は、8月16日から31日まで、7名のミュンヘン大学生が下野市に滞在しました。

滞在中は、日本語や日本文化の学習のほか、書道、弓道、茶道、琴、日本の家庭料理、下野

市の歴史、昔遊び、浴衣の着付け、日光への日帰り旅行など、さまざまなプログラムを行いました。

ミュンヘン大学生はもちろん、ホストファミリー、市国際交流協会にとっても素晴らしい交流の時間を過ごすことができました。



子どもたちに琴を教わる学生たち

国際交流協会 会員募集

市国際交流協会では、随時会員を募集しています。

ご入会いただくと、年に3回発行される会報が届くほか、語学体験講座の受講ができるようになります(別途、受講料がかかります)。また、協会主催のイベントや国際交流員イベントにお得な会員料金でご参加いただけることがあります。

ぜひご入会ください。

■年会費

個人会員	1口1,000円
学生会員	1口500円
ファミリー会員	1口2,000円
法人会員	1口5,000円